

建設水道常任委員会記録

令和2年2月7日(金)午後0時59分～午後2時05分(9階 909 会議室)

○出席委員(8名)

委員長	梅津 一匡
副委員長	根本 雅昭
委員	丹治 誠
委員	石原 洋三郎
委員	小熊 省三
委員	黒沢 仁
委員	渡辺 敏彦
委員	真田 広志

○欠席委員(なし)

○案 件

所管事務調査「道路の効率的な維持管理・安全対策に関する調査」

- 1 行政視察に対する意見開陳について
- 2 その他

午後0時59分 開 議

(梅津一匡委員長) ただいまから建設水道常任委員会を開催いたします。

本日の議題に先立ちまして、先月の当局説明におきまして、石原委員からの質問に対する答弁が一部保留となっていた部分がありましたので、正副委員長手元で確認させていただきましたので、その内容についてご説明をいたしたいと思います。

石原委員からございました、道路パトロールで把握した危険箇所についてどの程度解決しているのかというご質問あったかと思えます。そのご質問に対しまして、当局説明の際には、道路パトロールで把握した危険箇所の対応については、時間を要するものもあり、全て解決できていないというような、そのような答弁ではありましたが、当局のほうで再度確認をしたところ、道路の通行等に支障が生じないよう、全て対応し、解決済みでございますというような旨の回答がございましたので、お伝えをさせていただきたいと思えます。つまりは危険を取り除くイコール解決というような認識でちゃんと答弁できればよかったというようなお話でございました。

それでは、行政視察に対する意見開陳についてを議題といたします。

2月4日から6日にかけて実施しました行政視察においては、町田市では市民や企業との協働による道路環境改善の取組について、浜松市では道路の維持管理に関する取組について、柏市では道路の維持管理に関する取組について、説明を聴取してまいりました。

そこで、早速ではございますが、これら行政視察で聴取した各市の先進的な取組について、各委員からご意見を頂きたいと思っております。開会前にちらっと言いましたが、各市ごとに、町田市、浜松市、柏市、それぞれ皆さんにお伺いしていきたいと思っておりますので、まず町田市についてご意見ある方、ご意見まとまった方から挙手いただければと思います。町田市さんでは、みちピカ、まちピカ等々やっています。

(石原洋三郎委員) 町田市についてなのですけれども、大いに参考になる事業だったと思っております。みちピカ町田と、あとまちピカ町田なのですけれども、どちらもそんなにお金がかからないような事業で、しかも効果的なところがあったのかなと思います。ですので、みちピカ町田の市民への普及啓発、道路美化意識を高めていくという点では当市も大いに参考にしていきたいと思っておりますし、もう一つのまちピカ町田については、導入経費も、そしてランニングコストも100万円かからないようなお話だったと思いますので、であるならば当市もそれを参考にしながらやっていって、市民からの通報をしやすくなるような取組をしていくべきかと思っておりました。

以上です。

(渡辺敏彦委員) まちピカ町田の、みちピカ町田の活動は、市民意識の高揚には非常に効果があるものというふうに考える。特に子供たちの、まちピカなのかな、子供たちの活動については将来に向けて非常に意義があるものであると。ただ、愛護団体が48というようなことで、その割には多くないなとは思ったので、もっともっと啓蒙しながら、そういった団体を増やしていくことも大切ではないかなと。

次に、アプリによる通報件数、これについても総件数8,600余りの中で11%ということであるので、1年間で4%から11%になったものについては評価をするわけではありますが、町内会、自治会からの情報がほとんどなくて、個人からの情報でやっているというような話だったものですから、その辺ちょっと違和感があったと。ただ、アプリによる通報、これについては災害とか何かの場合については非常に、リアルタイムで入ってくるというか、そういったものには効果があるのではないかなと。総じて情報の重複あるいは氾濫を考えれば、情報等を登録して、エリア別に、町内会長云々ではなくて、本当に道路を愛している人と言うと変なのかな、絞って、無駄なく適正に行ったほうが効果があるのではないかなとは思った。情報の重複、氾濫。重複、氾濫というのはあまりないという話はしていたのだけれども、そういう可能性が出てくるのかなとは思っています。

町田は以上。

(黒沢 仁委員) では、これ書いてきたものをそっくりそのまま。やっぱり意識の啓発というような

ことで、みんなの道路をよりよくしましょうというようなことで、みんなの道だから、みんなできれいにしていきたいと思います、君と歩きたい道をつくりましょうというようなことでのいわゆる道路愛護運動の啓発というような部分では、教育上も、ある程度の効果を示したとおり、あとはリーフレットとかステッカーの活用が、こういったものを市民レベルまで浸透を見せれば、いい効果を発揮するのではないかなというようなことで、福島市も町内会を中心とした自分たちの住む地域を自分たちで守っていくのだという環境保全、道路を含めた、やっぱりそういった活動もしているのですけれども、より一層の充実した活動の展開が望まれるのではないかなということでございます。

あと、通報アプリの導入ですが、今渡辺委員のほうからも年間8,500件というようなことで、これを1課で対応しているというようなことで、いわゆる対話型通報の対応として600万円くらいの人件費の削減効果につながったという意味から、やっぱりみちピカからまちピカへ進化させたことによって、総合的な通報アプリに進化させて、いわゆる市庁舎内の縦割りという部分から横への連携へとつないでいく有意義な取組に進化させていくということは、道路行政ばかりでなくて、いろんな意味でまちづくりにつながっていくのかなというようなこととして研修させていただきました。

以上です。

(**小熊省三委員**) 町田のあれでいえば、そのアプリを利用したというか、先ほど同僚委員が言っていましたけれども、経費の問題では本当に少なく済むなと思いました。市が当初、そのところでいえば、LINEを利用してだとかという話があったので、そういう面ではこっちのほうかというところが思ったことが1つです。

それから、もう一つは、町田のところであれば、福島市の予算と比べてどうなのかというところはありますけれども、年間4億円ぐらいの予算を使ってやっているという意味では、すぐその状況に合わせたところの予算繰りも、これは詳しく調べていないので、あまり、ここだと断定的には言えませんが、そういうところでは対応ができやすくなっているのかなというような印象を受けました。

以上です。

(**丹治 誠委員**) みちピカ町田については、皆さんおっしゃるようなことです。非常に啓発運動として一生懸命取り組んでいるのだなということは分かりました。今後について、グリーンバードとかNPO法人とか、これからアダプト団体と言われるところを増やしていく、みちピカ町田大作戦を実施するというので、市民を巻き込んで、道路に対する愛着を持ってもらうということは非常にいいことだなというふうに思いました。

それから、もう一個のまちピカ町田のほうは、まちピカ町田を管理している道路管理課のほうに一元化したということで、これは市民にとって非常に分かりやすいのかな。そういった意味で非常に有効であるということと、そのアプリ自体もユーザーもログインとかユーザー登録しなくてもいいと、利便性がすごく優れているなということを感じました。

以上でございます。

(真田広志委員) このみちピカ町田、まず道路を使う側としてのモラルの問題というところに着目してこういったものを導入していく。経費もかからないし、意識を高めていくという意味では非常に面白いなど。私らもできることからやっついこうかななんてちょっと思ったところでした。

それから、こっちのまちピカのほうですか、通報アプリ、これシステム構築費が95万円、年間の維持管理費が月11万円ぐらいというふうな話もありました。こういったことをこのぐらいの経費で始められるのであればぜひ、いろんな課題なんかは浮き彫りにはなってきたのだけれども、まずできることから初めていってもいいのかななんていうような思いもありました。

それから、町田市のまず一番のいいところと言うとあれだけれども、まずいわゆる道路GIS情報の共有化、また継承が図られることによって、例えば要望箇所の過去の対応履歴の確認ができるという、これは非常にいいことだなどと思っていました。おそらく福島市もそうなのだけれども、通報箇所というのは結構ダブって通報されることが多くて、それらがきっちり対応できているかどうかというところ、それがしっかり共有化されていないという課題が、福島市に限ったことではないのだけれども、出てくるのだけれども、ここの町田市に関しては、いわゆるGIS情報の共有によって、それらもしっかり確認ができているということが1つ見習うべき点だなどと思いました。そのことなんかも含めて、例えば公園緑地課だったり土地利用調整課、いわゆる土地利用台帳、いろんな各所管にまたがる台帳の共有化ということができているから、多分おそらくこういったことができているのだろうなということを感じました。これ、もともと導入の経緯、ちょっと分からなかったのだけれども、もともとみちピカという名前にしていただけだけれども、道路だけではなくて、ほかの所管にまたがる場所も通報できるようになったので、たしかまちピカになっていったというような説明があったのだと思っているのです。それって非常にいいことだなどと思っていて、ぜひこれ福島市でも見習っていきべきだなどと思いました。

当然統合型のGISなんか導入すべきという話はさせていただいているのだけれども、そういったこともしっかりと構築、システム構築できていけば、こういったことも容易に可能になってくるので、そういったことも含めてしっかり市内環境というものを見直していくべきだなどという、システムも含めて、と思いました。

以上です。

(根本雅昭委員) まず、みちピカ町田のほうなのですからけれども、市民の意識を高めるということで、シールを配ったりですとか、市民自ら、なるべく自発的にという取組を大切にしているということで、すばらしい取組だなどというふうに感じました。なかなか各団体に作業内容といいますか、取組内容を委ねられていて、今48団体ということで、シールは配っているのですけれども、みちピカ町田に参加をして取り組んでいるということが分かるように、例えば、今回はやられていないようでしたけれども、旗の貸出しとか、何かワッペンをつけて作業するとか、そういうプラスアルファで、これをまねしつつ、何かその作業、この取組に参加してやっているということが分かると、より、あれは何だろ

うというふうに周りの方からも見られるのかなというふうに思いました。広がりという点で。

もう一つ、アプリのほう、まちピカ町田くんのほうなのですけれども、アプリは非常にこれ単純で、メールを送るということで、その後、今真田委員おっしゃったように、GISのところは何かすごい、かぶるところ多いですけれども、履歴がしっかりと残せて、これ電話対応もアプリからの入力も全て一元管理されているというところで、すごい情報といいますか、データベース化されているのだなということでした。あと、この頂いた2枚の資料のところをよく見ると、レイヤー情報によってということで、多分階層化して、いろいろな情報を重ね合わせて、視覚的、また文字情報でも見られるということで、情報があっち行ったりこっち行ったりということではなくて、こういったGISなどを使って、できれば統合型にして、しっかりと情報管理という意味では優れている取組だなというふうに感じました。以上です。

あと、もう一個ありました。あと、人材育成の取組です。いろいろ研修をたくさんやられているということで、人材育成にもすごく力を入れられていて、あとグループの決め方も工夫されていたというふうにお伺いしましたので、そういったところも見習うべきところかなというふうに感じました。

以上です。

(梅津一匡委員長) 皆さんから意見頂きました。

委員長から、委員長として感じたことを少しお話しさせていただきますと、まちピカ町田のほうに関しては、皆さんからも出たように、決して市民の皆さんにこれをしてくれ、あれをしてくれという強制をしてやるようなものではないという、その緩やかなお願いというか、そういう形で愛護の気持ちを醸成していくというやり方というのは非常に参考になるななんて思ったところでした。

また、シールも3種類作ったりして、それぞれ家に貼っていただいたりなんなりというような取組、それというのもやっぱり、例えば青少年健全育成会とかのみんなの安心避難場所みたいな、避難の家みたいな、そういうような啓発に近いような感じがあって、非常に何か身近に感じられる取組なのかななんていうふうに、ステッカーの作成についてはちょっといいなと思ったところもありました。

あとは、庁内でのデータの共有というところですか、そういったところ、3課の方、全て土木系といえば土木系ですけれども、どうせやるのであれば、福島市とかでも建設部の内部では全部、GISであったりとか、そういうデータベースであったりとか、まちピカ町田であったりとか、そういうような施策を共有していくということが、課をまたいでの取組というのが1つ必要になってくるのかなと思ったのと、あと一番皆さんも懸念していたのが、アプリ導入して、仕事忙しくなるのではないのなんていうことを心配されていたのが以前も委員会の中でもあったのですけれども、アプリ導入しても別に業務量が増えたわけではないのですよなんていうようなことがご説明いただいたりもできたので、そういった意味ではアプリの導入というの、今福島市も進めてはいますけれども、1つそういう不安を取り除く材料としてはいいのかななんていうふうに感じたところでした。

以上で町田市の部分についての意見開陳は終わりにしたいと思います。

続いて、浜松市について、皆様、ご意見頂ければと思います。なお、浜松市さん、質問したいことも皆さんあるでしょうから、もし疑問に思った部分とかもあれば、意見開陳の中で述べていただければ。

(**小熊省三委員**) 意見というか、質問というか、資料のところの13ページのところなのですが、道路維持のところに関する取組のところ、倒木だとか落枝のリスクの少ない樹種だとか、害虫の、病害虫の耐性がない木の種類の植え替え等というふうになっていたのですが、地域によって違うのかもしれないけれども、この辺の中身というか、東北の中で利用できるかどうか分からないけれども、そんなのがあるのかどうかとか、それからその次のところでも、維持管理の容易でない植樹の植え替え、剪定が大変なのはやらないよだとか、それから広がりというか、いわゆる枝が張り過ぎて邪魔になるようなところも、それも替えるだとかいうことが出ていたので、その辺のデータが、例えばこういう種類はならないよだとかというのがあるのだったら、ちょっと教えていただきたいなと思いました。それが質問項目として、あまりあれではないですけれども、気になったところです。

あと、意見の開陳はちょっと、すぐ回ってから言いたいと思います。すみません。

(**梅津一匡委員長**) 小熊委員からの問いかけというか、あれは、まとめさせていただきますと、どういふ樹木を植え替えるのが、ここに記載されていること以上に詳細な基準というものを知りたいというような質問をしたいというようなことでまとめさせていただいていいですか。

(**小熊省三委員**) そうです。お願いします。

(**梅津一匡委員長**) では、そのような形で、よろしく願いいたします。

ほかの皆様、ご意見、質疑、意見開陳も含めて、出していただければ。

(**渡辺敏彦委員**) スマホ通報システムいっちゃお！、今誰でもスマホを持っている時代になってきておりますから、非常に有効だろうというふうに思います。ただ、町場が個人情報が多くて、山間部は町内会長さんが通報するのだという話を聞いたのだけれども、福島市は町場なのかな、山場なのかなというような感じを受けました。有効な手段だというふうに、スマホみんな持っているから、だとは思いますが。

あと、集配車の活用については、これも役所で確認できない、町内会で確認できないといって、生活道路どこでもいいからという話なのだけれども、情報として入ってくるのはいいのだけれども、これまだ試験的にやっているのかな。どのぐらいの費用かかるとか、そういったことが分からないと、ちょっとまねできないのかなと思うのだけれども。実際に始まったならば、何ぼかかるというのが出てくるでしょう。だから、その辺分からないとちょっとあれなのかなと思うのね。あと、具体的に例えば今、現状で福島市でやるとすれば、市の職員だって、水道局だの、あっちこっちうろうろするときには何かできるのでないかなとはさりげなく思いました。

あと、歩道橋のネーミングについては、これ面白いなと思ったのだけれども、有効だとは思っているのだけれども、これ地域の企業の方々の理解、協力を頂かなくてはならない。あと、キャッチフレーズだ

か何か書いて駄目だとかというのあるでしょう。これは、国の基準であれば、国のほうに、これはその市だけでなく、全国的な展開の中で、これ基準見直せと。現実的に民間の人が、この前言ったとおり、ライオンズとかロータリーとか交通安全のとか、払っているわけだ。だから、そういうことをやれば、もうちょっと財政的にというか、道路に係る財政面がちょっとはよくなる、50万円でも20万円でももらえば、あるだけみんなもらえばというふうには思いましたので、頑張ってください。

(梅津一匡委員長) 本市も導入できればいいなということでもいいのですよね。

(渡辺敏彦委員) いいことだと思うのだ。ただ、国の基準があって、会社の名前出しただけではどうにもならないから、キャッチフレーズ出したい。交通安全とか出ているでしょう。それからすると理屈合わないのだよ。理屈合わないのであれば、国のほうに改正を求める、そういう努力も地方自治体として、していかななくてはならないとは思ってきたから、そういう話です。頑張ってください。

(梅津一匡委員長) 渡辺委員の当日の質問の中でも、回答にもあったようだけれども、仙台市だったっけかは色も使ってもいいとか、いろいろそういう緩やかな基準でやっているようなので、何か国が言ったとは言っているけれども……

(渡辺敏彦委員) 市の条例ではないでしょう、だって。市の条例ではないと思うのだ。

(梅津一匡委員長) 市の条例とかでつくるわけではないだろうけれども、そういう意味では逆に、やる気になれば福島市もすぐできるのではないのかなとは私はちょっと感じたところがあったのですが。

(渡辺敏彦委員) だから、ここでやっているように会社の名前とか、あれしか出せないというのでは、出すの少ないでしょう。だから、もっともっと……

【「キャッチフレーズ出すと駄目だとか」 と呼ぶ者あり】

(渡辺敏彦委員) そうそうそう。そういうのもひっくるめて調査して、国、県が駄目だったら市町村で頑張るといことです。

(梅津一匡委員長) 意見として今のところを全て頂く、どのくらいの費用かかるのかというところは、あのときも聞いたけれども、ちょっと分からないというような感じだったので……

(渡辺敏彦委員) まだ試験段階だから、分からない。

(梅津一匡委員長) ちょっとお伺いはできないところはあるかもしれないので、ちょっとその辺は勘弁いただいて、ご意見として、意見開陳として伺いました。

(黒沢 仁委員) 同じなのだけれども、大体。道路のモニタリングというようなことでヤマト運輸の集配車を利用しているというようなことで、確かに、これはビデオカメラだね。ただ、結局そういうふうな、箇所だけはすぐそういうふうなあれで判断できるだろうけれども、やっぱりその損傷の具合とか何かという部分までなかなか見極めが大変だというようなことで、そういうふうな損傷の具合についても段階的に評価できるようになれば、それは今度AIの活用までつなげていって、いわゆる補修の適切な方向にまで持っていきたいというような部分で、ある意味ではモニタリングすることよ

りも、逆に通報システムなんかで、福島市なんかもそうなのですけれども、やっぱりいろんな形でどのようにして管理をしていったらいいか、いわゆる通報の部分も含めて、そしてやっぱりそこから優先順位とか何かを探り当てるような方向というような部分だけでも、結局はやっぱりA、B、C、Dという道路管理に基づくと、やっぱり生活道路のDという部分が多いというような部分と、いっちゃお！という通報システムも利用しても、実際はやっぱり市民からの通報の件数のほうが多くを占めてしまうという部分で、それらをやっぱり総合的に管理していくという部分が今後、ここも検討しているというふうなことで、福島市なんかもやっぱりそういった住民の情報をいかに集約して、ちゃんと集積しながら点検していくかと、そういうような方向性を探っていく部分と、福島市の場合は広大な面積を持つ、そして広大なというような部分で、やっぱり目視によるいわゆる道路管理体制というような部分は今後もある意味では強化を図っていかなくてはならないのかなという思いで聞かせていただきました。以上です。

あと、ネーミングライツは同じです。

(丹治 誠委員) まず、道路の実延長日本一、8,481キロという中で、現業の職員がいないということで、うまく業者を使って効率よくやっているのかなという。このいっちゃお！の実績表を見ても1,844件、この何年間でやって、ほぼほぼ全部対応しているという、これはすばらしいことなのではないかなと思いました。そのいっちゃお！ですけれども、通報した後に市民が対応状況を確認できるというところは、市民としても見える化ができて、自分が言ったことの状況を確認できるので、これは非常に有効かなというふうに思いました。

それから、企業を使った、連携した道路モニタリングプロジェクトについては、これはまだ全然出来上がっていないということなので、出来上がって、有効そうなのであれば、福島市も参考にすればいいのかなという、そんな思いでありました。

以上でございます。

(石原洋三郎委員) スマホの通報システムのいっちゃお！なのですけれども、さっきの町田市の通報システムと比較したときに、多分いっちゃお！のほうでいろいろメニューはあるのかなと思ったのですけれども、コスト的には町田市さんのほうが大分安く、インシヤルコスト、ランニングコストってできていますので、市民からの通報という部分においては、なるべくコストがかからない形で、使いやすいものを探っていけばいいのではないかなと思った次第であります。

ネーミングライツなのですけれども、渡辺委員ご指摘のとおり、何かいろいろ模索して行って、やっていくということを検討して行ってはいいのではないかななんて思いました。名古屋市さんとかだと100橋とか、結構な数がネーミングライツとして成功しているような話もあったので、そういう成功事例も参考にしながら、福島市も考えていけばいいのではないかなと思った次第であります。

ヤマト運輸さんのものに関しては、今後の取組がどういうふうに進んでいくかによって、当市も参考にしていけばいいのかなと思った次第であります。

以上です。

(**小熊省三委員**) 浜松のところでは、路面下空洞調査というのをやっているということだったのですが、福島市ではちょっとその報告が、どうなっているのかなというところがちょっと気になったところがありました。ここでは効率的に場所を選んで、危険箇所を調査していくというようなことを実施したいというような今後の、言っていましたけれども、どういうふうなデータが、表現は悪いかもしれないけれども、こういう条件だったらば調査したほうがいいよというのがあれば教えていただきたいということと、それからそもそも膨大な費用がかかると言っていますけれども、結構かかるのだろうかというところが、誰か聞きましたっけ、これ。

(**梅津一匡委員長**) 誰か何か聞いていたような気がしないでもないけれども。

(**小熊省三委員**) その辺のところ、効率的なというようなところで参考にはなるかなと思いつつながら、費用の問題がちょっと気になったというところ。なおかつそういう意味では福島市のこの前の報告の中では地下空洞の調査というのは出ていなかったような気も、やっているのでしたっけ。僕はちょっとこの前の報告を見た限りの中ではちょっとなかった。だから、やれというわけではないけれども、その辺は危険のところはどんなふうに……

(**梅津一匡委員長**) いつぞや本会議で……

(**小熊省三委員**) やったのでしたっけ。

(**梅津一匡委員長**) そういふようなお話あったような、お話というか、やり取りが、福島市のやり取りはどうか。逆に、それは浜松市さんに聞くというより、福島市でどうなのだとすることを聞くべきではないのかなと。逆説的に捉えさせていただきたいと思います。実情が違うと思うので、あちらさんはあちらさんでのやっぱり業者さんというのものもあるだろうし、あとは単価というの、建築単価というところもやっぱりあちらとは違う部分もあると思うので。逆に、その辺は福島市に聞いたほうがより実情的な話になるのではないのでしょうか。

(**小熊省三委員**) 分かりました。何か意見になっていなくて申し訳ないですけども。

(**真田広志委員**) これ、いっちゃお！については、たしか初期費用が540万円ぐらいかかると言ったのはこれだったかな。システム管理に160万円。若干ちょっと金額かかるなという意味では、先ほどの町田のシステムと比べると。その辺も若干、決して高くはないのだけれども、その辺もしっかり検証が必要なのかなということぐらかな。特に。

あと、集配車を活用した道路モニタリング、アイデアは非常に面白いかと思つています。これは、あくまでもヤマト運輸さんで独自に行っている実証実験ということで、現段階で特に参考にすべきところはないのかなという。当然想定される、私もこういったシステムあるという話は聞いていたのだけれども、面白い試みだな。ただ、当然想定されるのが、損傷箇所の抽出とか、そういったことは、例えばウェブデータ上では当然そういったことの把握というのはできるのだけれども、その情報処理の方法、どういうふうに行っているのかなというところが非常に興味あったのだけれども、現状では特に

その辺がやはり課題として挙げられているということなので、まだこれ、導入段階には到底至らないのだらうなという。あと、いわゆる情報の処理の段階で、例えば車両ナンバーなんか、民間に委託したときに、それを道路管理者がそのデータを活用する際に、そういった車両ナンバーだったりとか、人物の特定ができるような状況でのデータ活用というのはできないというような、そういった課題もあるというようなことも聞いたので、そういったことも、逆にほかの都市ではどういった形での活用しているのか、それも含めて情報処理の構成なんかもしっかりと勉強してくる必要があるのだらうななんては思いながら聞いていたので、最後のほう、何かちょっと、説明がちょっとはしょっているような部分があって、ちょっと分かりづらいところもあったのだけれども、その辺も私もしっかり勉強していく必要はあるのだらうなというような感想です。そういったところでした。

(根本雅昭委員) まず、いっちゃお！ですか、道路の土木スマホ通報システム、ちょっとなかなか質問したかったこと、時間の都合で聞けなかったところもあるのですけれども、これ、資料を見ると、通報者への返信画面にマルマル土木整備というふうにありましたので、返信、もしかしたら委託業者も可能で、この管理画面、委託業者も共有して、いろいろな業者と共有されているのかなというふうに想像したところであるのですけれども、ちょっと聞けなかったので、分かりませんが。あとは、業者と情報共有されているとすると、電話とか、先ほどの町田市さんですと、GIS上で情報を一元管理されていましたが、このアプリも、町田市さんがGISで管理されているようなところを管理画面上で、地図上で、あと履歴なんかも残されて、管理されているようでしたので、ほかの電話や何かの情報もそこに集約されているのかどうかというところが気になったところでもあります。ただ、その一方で、資料の、最後の資料ですか、道路の維持管理に関する取組についての最後の説明の段階で、メンテナンスサイクルのデータベース化が課題だというお話がありましたので、やはりその情報の管理のところは今後課題となって、説明では今年度からデータベースの構築に着手されているところで、来年度、令和3年度から運用開始を予定しているということでありましたので、そういう課題もあるのかなというふうに想像したところでもあります。

あと、ネーミングライツ、隣の仙台市さんのほうで、そっちの取組のほうがいいのではないかというお話ありましたけれども、そういった取組も、せっかくですので、調査できたらいいのかなというふうに思いました。福島市でもやはり、ほかで成功事例があるということは、導入に向けて検討する価値は大変あるのかなというふうに感じました。

あと、そのほかは先ほどお話出たとおりだと思いますので、以上で。

(梅津一匡委員長) 委員長として思った部分については、皆さんから出たのとほぼほぼ同じといえば同じなのですが、実証実験で今現在ヤマト運輸とやっているということですが、その前段に説明いただいた市販のビデオカメラを用いた舗装ひび割れ自動解析実証実験、この辺やってみると、4割近くコストが削減できそうだなというようにご説明があったと思いました。そういった中で、やっぱりそういうカメラであったりとか、そういう新しい技術を活用した取組というのが必要で

すし、ヤマト運輸さんという、そういう民間企業との協働というのがありますけれども、例えば福島市であったらごみ収集車であったりとか、そういったものにカメラを搭載すれば、それだけでもまたちょっと細かくいろんな生活道路のところを回れるのではないのかななんていうふうに感じたりしたところでした。

そして、あと舗装の維持管理の取組というところから出てきたと思うのですが、結構石原委員とかが言うのかなと思ったので、黙っていたのですが、コンクリート、プレキャストコンクリート舗装を導入したということで、イニシャルコストが非常に高いのだけれども、修繕費を下げるという観点からそれを導入したのだよというような説明あったと思います。そのことについてちょっと聞いてみたいかなんて思っていたところがあって、従来の舗装、従来のアスファルト舗装と比べて単価がどのくらい違うのか。大変費用が大きくなるという説明はあったと思うのですが、具体的にどのくらい、例えば何倍、もともとのやつより1.5倍ですよとか、2倍以上ですよとか、具体的なある程度の数字的なものも、もし聞ければよかったかなんて思って、ちょっとこの辺は聞いてもらいたいかなんて思ったところと、あとこれはちょっと打合せとかでも事務局とかともしゃべっていたのですが、例えば雨降ったときとか、コンクリートだと滑りやすいと思うので、その滑り止めの対策みたいなことというのはやられているのかどうなのか。福島市で仮にコンクリ舗装って導入した場合、今日みたいに雪降ったりなんだりすると、なおさらつるつるになると思うので、そういった転倒防止、瑕疵の関係にもなってくると思うのですが、そういったところの対策というのはどのようにやっているのかお伺いしたいかなんて思ったところでした。

あとは、ネーミングライツについては、導入したときは大変よかったけれども、その後が尻すばみだなんていうようなことではあるのですが、ただ身近に道路行政を考えてもらうためには、そういったことをまずは福島市でもやってみるといいのかなんて思うところもありました。ただ、国体記念体育館的な感じの長いネーミングだと覚えにくいところも、愛着を持ちづらいところもあつたりするので、よしあしではあると思うのですが、渡辺委員が言ったみたいにキャッチフレーズとか、何かそういうのを入れられるような感じで活用できれば、歩道橋というのもいろいろ幅が広がってくるのかなんていうところと、あと歩道橋も歩道橋ですけども、道路にやっちゃってもちょっと面白いのではないのかなんていうのは、橋に限らず、というような、ただ私道ではないという部分ではあるのでしょうかけれども、そういったところはちょっと感じたところでした。

ひとまずここまで浜松市で閉じたいと思います。

続いて、柏市についてご意見お述べいただければと思います。

(石原洋三郎委員) 柏市さんのほうですと、路面性状自動測定車とか、スマートフォンを活用して道路診断しているということだったので、路面性状自動測定車だと、1キロメートル当たり4万円かかっているような話だったので、コストがすごくかかるのではないかなんて思った次第です。スマートフォンでやるということも通信費とかかかっているのでは、どうかなんて思ったの

ですが、結局福島の場合だと山があつたり、町なかがあつて、路線ごとに交通量とかも違うと思いません。山のほうだと、10年たっても20年たってもあまり車が通らなくて、壊れていてもそんなに緊急性がないようなところもあれば、逆に町なかだと1年、2年で損傷してしまうと。市民も多く利用するところであれば、やっぱり優先順位とか、そういうのも変わってはくると思いますので、一番重要なのはやっぱり効果的にやれるような方法を、福島市の最善の道を探っていくのがいいのではないかなと思った次第であります。もちろん参考にしながらということです。

以上です。

(丹治 誠委員) 道路パトロール支援サービスは、道路パトロールをしながら、ついでにスマートフォンで道路の状況を測定していくということで、ついでにやれるというところはまあいいのかなと。一番は道路の、いろいろシステム自体に、タイヤの幅云々とか、若干のデメリットはあるのですが、それを活用しながら、一番は道路の状況を、どこがどんな状況なのかと見える化できるという、そこはすばらしくて、それによって、どこから先に補修に手をつけたらいいのかとか、それが分かるというのが、これはすばらしくいいことではあるのかなというふうに思いました。ただし、路面性状自動測定車みたいにきっちり測れないという面はあるものの、この路面性状自動測定車、高いというのがあるのですが、どの程度スマートフォン活用したものとミックスしてやっていけばいいのかよく分からないですが、ここを併せながらやっていくと、ある程度効果は出てくるのかなと、そんなような、これは感想です。というふうに思いました。

以上でございます。

(渡辺敏彦委員) これについては、初期投資は大したことない、年間150万円経費かかるというのだけれども、精度が70%から80%の精度なのね。実際にカメラで見たり、目で見ていないから、ちょっとしたもので誤差が大分出てくるのかなとは思ったのです。だから、費用対効果の面でどうなのかなという疑問を持ちました。

以上。

(黒沢 仁委員) これもよく、ICTに弱い人間だから、分からないのだけれども、道路パトロール支援事業というようなことで、システムのイメージというようなことで説明あったのだけれども、やっぱりいわゆる情報の一元化というのかな、データベース化をして、これをやっぱり当然一元管理することで、管理した情報を集めて、そしてなおかつそれを今度AIを活用して、そういったいわゆる道路補修に結びつけていくというような部分では大変評価する部分があると思うし、また初期投資にしても1台7万円で、システム化が25万円、初期150万円というようなことで、ある程度の低コスト化は進んでいるのだろうけれども、住民からのそうした要望をいかにこういったデータに組み入れて対応していくのかなとなった場合は、やっぱりさっきからも言うとおりの、いわゆる目視によるそういった道路管理体制も並行してやっていかないと、作られたデータが本当に市民生活の向上につながるかどうか、その辺やっぱりちょっと疑問を感じながらも、やっぱりこういったいわゆるICT化に

取り組んでいく必要性はあるのかなという部分です。

以上です。

(真田広志委員) まずいわゆる路面性状自動測定車のほうは、やはりコストがかかるということで、これは幹線道路のみにしか実施していないのですよね。そういったコスト面の課題なんかも当然見えてくるだろうな。その一方で、いわゆるパトロール車のほう、いわゆる加速度センサーでの道路の凹凸検知、これは非常に面白いなと思いました。コストもかからないしという。ある程度のデータの精度も見えてくるということで、これはちょっと試してみる価値はあるなというような感じがしていました。

それからあと、柏市さんのいわゆる道路維持の優先度のつけ方というのが非常に参考になってくるなと思っていて、当然MC I 値による診断区分、これはどこでも当然やっていくのだろうけれども、それに加えて、例えば舗装の劣化度だったりとか区間の重要度、住民サービス評価とか、そういったような基準を幾つか設けて、それらをそれぞれの項目ごとの評点というのを何かつけているというような話がありました。その中の総合的な評価、評点によって優先度というものをつけて、さらに結局何を優先度としているかって見えづらいところがあるのですよね。市民からすると、何でそこを先にやっているのというところをそういった評点によって、いわゆる評価制度をつくることによって、ある程度、システム化することによって、ある程度見える化していくということも、市民に対する説明責任という意味では非常に重要な視点なのかなということを思いました。その中で、例えば重要度がある程度高くても、例えばその舗装の仕方、区間の設定の仕方によって、また予算なんかも変わってくるわけで、その辺をやっぱり効果的に使うために、80メートル区間とか、そういったことの設定の仕方なんかもいろいろ工夫されているというような話がありました。それなんかは、やっぱり行政のある程度これから、ある程度予算も限られた予算の中で、利便性の向上ということも考えてくと、そういった視点というのは非常に重要なのだなということを思いました。

それからあと、道路に限ったことではなくて、福島市も公共施設等総合管理計画というものをつくっています。結局あれ、これからの限られた予算の中で、どれだけ効率よくという視点もある意味必要だということから始まってきているのだろうと思います。それは、道路に関しても同じであって、そういったときに、柏市さんにおいては、事後保全型ではなくて予防保全型ということを徹底していること、そのことによって40年間で400億円以上の経費の削減というものがしっかり図られるのだよと。壊れてしまってから全面的に直していくと、やっぱりそれなりに予算がかかる。そうなる前にそういったものをしっかり見極めながら、ある程度劣化が進む前に補修をしていく、修繕をかけていく、そのことによってトータルコストというものが物すごく抑えられるのだよという、そういったところにしっかり着目しながら工事を進めていく、道路整備を進めていくという、そういったいわゆる行政のこれから基本になっていくのではないかなと思っているので、そういった視点というものは大いに参考になるなというような感じがしました。

以上です。

(**小熊省三委員**) 今真田委員が言ったところとダブるので、そこは予防保全については発言を、意見開陳は除いて、道路維持のところ、これも福島市に聞けばいいのかもしれないのですけれども、掘削掘りだとかFWDの調査だとかって、こういう形でやっているというところでは、かなりそういう意味では綿密なというか、データ取りながらやっているのだなというところが思いました。福島市の実態がちょっと分からない中で発言していて申し訳ないのだけれども、そういうところを1つ思ったことです。そんなところでしょうか。

あともう一つは、先ほども出ていましたけれども、いわゆる主幹の道路というか、あれについてはきっちりデータ取りながらでも、生活道路については職員の目視というあたりになっていたので、そういう意味では確かにそういう、範囲が広いからというのもあるのだろうけれども、それでいいのかなというところが1つと、それからなかなかこれは機械を入れていないから、なかなか難しいのでしょうけれども、例えばここでは工事の、従来の工法をやるのにはMC Iというか、あれが3.5以下を基準にしているというようなあたりで、前のところは4以下を対象にしていたような気がしていたので、かなりそういう意味では厳しく見てやっているのかなというような感じがしました。

以上です。

(**根本雅昭委員**) 一番の取組、柏市さんはスマホを活用して路面状況の見える化ということで、このアプリを使って加速度センサーの状況を分析していたというところだと思うのですけれども、逆に映像がない分、データ量はすごく少なくて済むなということは思いました。GPSさえ受信できて、あと加速度センサーついているスマホであれば、一般の車両でも協力していただける普通の一般の方を募集して、ダッシュボード辺りにGPS受信できる状態で置いて、あとはデータを流せばいいだけで、データ量はそんなに多くなく済むと思いますので、そういうことで一般の方が参加しやすい取組もあるかなというふうに感じました。あとは、今後AIを活用してというお話もありましたけれども、一般の車両だとどうしても設置状況によって誤差が多くなったりしますけれども、参加者が多くなれば、それらを除いて、AIで自動分析してとか、いろいろと広がりのある取組で、面白いかなというふうに感じた次第であります。

以上です。

(**梅津一匡委員長**) 委員長として感じたところは、皆さんから出てこなかったところだけをちょっと考えてみると、人材育成の取組のところですかね。大きく3点、現場技術力の育成、説明能力の育成、問題解決能力の育成というところで、その中でちょっと、聞けばよかったのかもしれないのですけれども、現場技術力の育成のところ、施工方法に対する注視すべき点や失敗事例ということで、失敗事例から学ぶことというの、なかなかちょっとやりづらいところもあるのに、いろいろ積極的にやられているのだななんていうふうに思ったところ、やはりベテラン職員とセットで若手職員が動くというようなことであったりとか、様々そういう工夫、本市でもしているとは思いますが、いろ

いろそういう人づくりというところはいろいろ学ぶべき部分もあるななんていうふう感じたところでした。

あとは、各種窓口での対応について、個人の対応だけではなくて、精通した職員によるフォローであつたりとか、多様な利害関係を調整するコーディネート力を育成って、なかなかちょっと文言で書くとすごいですけれども、普通そんな書きづらいといえれば書きづらいことをすごく書いて、取り組んでいるのだなというふうに思ったところでした。

以上で柏市さんの意見開陳を終わります。

全体を通してご意見ある方お述べいただければ。

(渡辺敏彦委員) まだ写真とか様々なデータで、機械とか機器に頼って舗装状況診断等々については、概要を把握するという部分では効果があるのかなというふうには思いました。ただ、やっぱり我々田舎者ですから、目視できちっと適正に情報をもらわないと、何となく納得できない部分がまだまだ我々も職員もあるのかな。現場に行こうと言われて、行って俺らも見に行つて、役所に行つて、俺見てきたけれども、こうなのだよという話もあるものですから、そういったことから考えれば、スマホを使つたって、目で見たって、情報をどう役所のほうに届けるか、これが大切であれば、今の状況を、これ財政事情もあるのだけれども、市民の要望に対して応えなければ、市民も情報を出さなくなるということを考えれば、しっかりと道路行政に対する予算を組んでいただいて、要望が来たら直してやるよというような流れをつくっていかないと、情報も、例えばデータで5年も10年もやったのだけれども、何ぼ送つてやっても一つも直らないのだとなれば、当然市民としてデータを送らなくなってしまうのではないかなという思いはあるのね。その辺の予算編成も含めて、市民の安全安心を確保するための予算をしっかりと取るような、そのような努力をすれば市民の方々から、ここも直してください、あそこも直してくださいという話が出るのではなからうかなとかすかな期待を持ったところがありました。

以上。

(梅津一匡委員長) ほかにあります。

(小熊省三委員) いわゆるスマホだとか、機器を使つての調査というところで大分勉強させていただきました。例えば今までの従来の福島市の中で、例えば地下空間の問題、危険の問題でなくて、打診だとか、何かの形で、それに代わるような計算方法って持っているのかなという感じはちょっと、それは僕聞いていないので、分からないのだけれども、そういうところの中で、今までの従来型での検査方法と、確かに新しい、機器を使いながらと言つただけだけれども、そこでの比較と言うとあれなのですけれども、そこも頭にちょっと入れなければいけないのかなという、そこは市の当局のほうには聞いていないので、何も言えないのですけれども、おそらくあるのだろうと思うのです。表面的な見えた現象だけではなくて。そのところをちょっと思いました。3市のこととちょっと関係なくなつてしまうかもしれません。調査方法との関連の中で思いました。

(石原洋三郎委員) 先ほどお話あったレスポンスの早さというのはやっぱり重要なことだと改めて思いました。やっぱり市民の方が通報したときに、穴ぼこがそのまま2週間、3週間放置されたまままで、例えば誰かがけがとか事故を起こしたら、だからやっぱりすぐやってくれなかったからだというふうにもなってしまうので、安全安心な道路行政においてはレスポンスの早さというのも重要ななんて思った次第であります。

(梅津一匡委員長) 委員長としてまた感じたことを1つだけちょっと、全体を通してのことを述べさせてもらおうと、三市三様、それぞれ様々なアプリであったり、道路の維持補修に対する新しい技術を活用した、ICTを活用した取組というのがあって、非常に面白いなというふうに思ったところはまず1点でございます。一体本市はどこをチョイスしていくのか、どの形を目指していくのかということが1つこれから、これからというか、もうほぼほぼ導入に向けて動き出しているようなので、そこは我々としても早い段階で当局に対していろいろと意見を述べていきたいなというふうに思うところと、皆さんからも出ているように、3市それぞれあったわけですけれども、市民が通報して、今現在どのような状況になっているのか、対応済みになっているのか、それとも現場を確認したのかどうなのかという、そこが見える化ができていく市というのが何市かあったと思います。そういった、このご時世でございますので、やっぱり市民との相互交通、交通というか、相互意見交換みたいな、そういうようなことができる技術が進んできている時代ですので、そういったところ、やっぱり道路の見える化というのが1つ視点として必要なのかな。そのためにはこれだけの財源が必要なのだということが逆に説明がしやすくなるのではないかというふうに3市を通じて思った次第でございます。

以上でございます。

このほかご意見ありませんか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(梅津一匡委員長) ご意見ありがとうございました。本日頂いたご意見について、正副委員長手元で内容を整理させていただき、調査のまとめの際にお示しさせていただきたいと思っております。

以上で行政視察に対する意見開陳についてを終了いたします。

それでは次に、その他に移ります。

次回の委員会は、3月定例会議の委員会審査後に行います。

なお、詳細については委員会の審査日程が確定いたしましたら改めてご連絡いたしますので、よろしく願いいたします。

そのほか委員の皆さんからご意見があればお願いいたします。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(梅津一匡委員長) 以上で建設水道常任委員会を閉会いたします。

午後2時05分 散 会

建設水道常任委員長

梅 津 一 匡